

視点

東日本大震災発生から4年を経て —防災文化を掘り起こし、次の災害への備えを—



東北大学災害科学国際研究所所長 今村文彦

平成23年3月11日午後2時46分、まだ冬の季節が残る東北地方に、巨大な地震による長くて強い揺れ、そして沿岸域に津波が来襲し甚大な被害が生じました。さらに、福島原発1号機も影響を受けたことにより過酷事故が発生し人類の経験がない複合的な災害になってしまいました。あれから4年が経とうとしています。被災地での復興の状況は様々です。発災当初からも復旧・復興への足並みの違いは課題として指摘されましたが、懸念以上の大きさです。

我が国は自然災害が多く、大きな被害を受けてきましたが、その度に、復興し地域を再生してきました。祖先の甚大な努力と教訓を繋いでいく「防災文化」の継承があったからこそと思います。中緯度に位置し自然に恵まれた環境にある日本列島は古来より、地震・津波、火山、台風、豪雨、地滑りなどあらゆる自然災害が発生し、多大な被災を繰り返してきました。その中でも先人は様々な智慧を出し、この苦難を乗り越えてきたのです。一方、最近では防災技術や情報システムの発展や施設整備の恩恵を受けて、災害による被害を押さえられていた感がありましたが、まだ多くの想定外の災害を経験しています。国策として災害対応を見直す必要がありますが、同時に、我々は日常生活の中で、工夫して様々な災害に対して「備え」をしなければならぬと思います。

防災文化とは、日常の生活の中に生き続けている智慧であり、工夫であります。地域の地名にも過去の災害やその教訓の由来が多く残されています。危険な場所、逆に安全な場所を知ることができます。神社仏閣にも、災害や防災に関する名前や言い伝え

が残されていますし、お祭りの中にも、防災訓練や津波避難を想定したような役割が残されています。知らず知らずのうちに、将来の災害への備えや命を守る重要なポイントを伝えているのです。

東日本大震災後に指摘された1つの懸念が、この防災文化が失われつつあるという事でした。被災して初めて知った「地域での智慧や教訓」は数多く報告されています。三陸沿岸での「津波てんでんこ」、地域で残された石碑とその碑文、津波から浸水を免れた「浪分け」神社、などがあります。さらに、避難先での非常食（保存食）は、いまは「サバ（イバル）メシ」とも言われますが、昔ながらの食材や食事（方法）が役だったとも言われています。全国には、このような防災文化（または伝承知）がまだ数多く残されています。是非、皆さま方の地域で「防災文化」を掘り起こしてみませんか？その結果を地図に載せてみたり、ハンドブックやレシピとしてまとめてみることも有用であります。その地域での智慧は、将来に渡っても生きるはずです。

昨年も自然災害による猛威や被害が多く報告されました。毎日のテレビ・新聞の中で、被害やそこからの復旧・復興に関する報道のない日がない状態が続いています。「いつどこで、どのような災害に遭遇するかわからない」、これも繰り返される報道での代表的なメッセージです。しかしながら、「自分事」にその状況を感じ、具体的な備えに活かしている方々は、残念ながら多くはありません。我が国で、地震や津波、火山などの自然災害は、繰り返されます。あの日を迎える前に、地域に根ざした備えが必要ではないでしょうか？

平成23年3月11日に起こった未曾有の大震災から4年が経とうとしています。今月号では特集として、岩手県、宮城県、福島県に加えて、被災した子どもたちを受け入れる山形県、新潟県の幼稚園のあわせて5園から、復興の様子や、現在保育現場で抱えている問題などについてご執筆いただきました。

岩手県

被災園舎の再建と今後の課題

あの東日本大震災から早4年が経とうとしています。そのような中、本園は震災の津波でほぼ水没し全壊した園舎をより安全な場所に移転し、平成26年9月30日、震災から3年6カ月を経て新園舎を竣工することができました。

津波被災直後は、がれきや汚泥まみれになった園舎を前に例えようのない喪失感と先行きの見通しが全く持てずに呆然と立ちつくしていた状況を思い返すと、悲願の再建が叶ったことに深い感慨をおぼえます。

再建に至るこれまでの道のりは、すべてが手さぐりと綱渡りで歩んできました。震災直後は、警察、消防機関を含む地域行政の機能マヒに加え、人数さえ把握できないほどの津波犠牲者と見渡す限りのがれきが散乱する無残な街並みという、文明社会とは程遠い劣悪な環境に着の身着のままに身をおかれ、まず目の前の責務として通信、交通手段もままならない中での園児の安否確認に翻弄され、息つく暇もなく行方不明により欠員が生じた理事会の立ち上げを図り、園舎再建を含む法人運営の継続方針を決定することとなりました。その後、再建に向けて震災時に園児を避難させることができた高台にある県立大槌高校に隣接する同窓会館を緊急避難的に借用することができました。必要な教材教具は日本ユニセフ協会より全額資金援助を受け保育の再開を果たしました。そこで約8カ月間を過ごした後、震災年の翌年1月から同ユニセフ協会の仮設園舎建設費支援を受け安定的、計画的に保育ができる幼児仕様



◀みどり幼稚園新園舎

の保育環境を取り戻すことができ、その後、仮設園舎で2年8カ月間を過ごし、このたび本園舎の新築竣工を果たすことができました。

ここに至るまでには実に様々な困難があり、おかれている状態がイレギュラーであるが故に状況を前進させるにはことごとく問題が立ちはだかりました。一例を挙げますと、移転に伴う新たな土地の取得と被災した園舎地の町役場への売却において、移転先民有地には開発行為問題が浮上し土地売買の協議はとん挫、一方で当該売却地には震災の5年前に新築した園舎の借入抵当権が設定されたままで、土地の売却にはその除去が前提となり、除去に必要な残債の繰り上げ償還には違約金が求められて八方ふさがりになるなど、他にも様々な想定外の問題に直面し万策尽きたと絶望感に陥ったことは数知れずありました。

顧みて、園の再開に至るまで多くの個人、団体、特に関係私立幼稚園の皆様より様々なご支援を受け

たことに対しまして感謝のことばもありません。また、園舎の建設には計画的準備資金もない中、最終段階で日本赤十字社を通じた台湾赤十字からの多額の資金援助が決定し、ドイツの支援団体より園庭遊具支援を受け、更には国際開発救援財団から備品購入の一部資金援助も受けるなど、国内外からの支援も多数寄せられ、当初の厳しい再建計画案が結果的に大きなダメージを受けることなく園の再建を果たせたことは、関係各位に対して感謝してもしきれない思いであります。

しかしながら他方では、全園児の約 4 割の世帯は仮設住宅のまま、また保護者世代が定着、定住していくための住居環境や地域の就労環境整備が立ち遅れている中で、人口流出と町の急激な人口減という被災地特有の厳しい現実もあり、先行きの不透明感を抱えながら地域社会の早期復興と被災地の変遷する諸課題に即した経営努力が今後の課題となっております。

(岩手県上閉伊郡大槌町・みどり幼稚園理事長・園長／佐々木栄光)

宮 城 県

震災から 4 年・これまで、そしてこれから

▶旧園舎全景



平成 23 年 3 月 11 日の大震災からもう 4 年という月日が経ちます。当園の在る南三陸町では現在、震災からの復旧、復興のため、また住居の高台移転に伴う工事により、町の形が大きく変わろうとしています。当園も高台の仮園舎で保育を再開することができましたが、当該地区が高台移転の造成工事区間になっているため、また引っ越しを余儀なくされております。当園は震災の津波により園舎が完全に流失し、暫く休園状態でしたが、平成 23 年 9 月に志津川小学校の空き教室を借りて一時保育を主に再開、その後大船地区公民館を借り、通常の幼稚園活動が出来る状態になりました。

被災直後より、日本ユニセフ協会からの支援を受



◀園舎流出跡地

けておりましたが、志津川沼田地区の町有地に仮園舎を建設していただき、平成 24 年 8 月後半より同地にて本格的な幼稚園再開を果たすことができました。この間、全国から個人、団体を問わず多くの方々より、細かい物ではクレヨンからノート、折り紙等、大きい物では机や椅子、遊具等のご支援を頂き、誠にありがたく感じました。そして、励ましの言葉を掛けて頂く度に、頑張っていこうという気持ちが湧く思いでした。

さて、南三陸町の人口は震災時には約 1 万 7 千人、現在は約 1 万 4 千人とこの 4 年間に大きく減少しております。町は復旧、復興へと大がかりな工事が進んでおりますが、それでも住宅再建には開発地

区により1年半から3年の期間があります。震災から既に4年、仮設住宅での生活も長い人では3年半も居住しています。また、震災時まで勤めた職場も再開する目処が立たないため他市町に職を求めの方も多く居ります。住宅再建、職場の関係等、高台造成を待てない人が他市町に転出した事が減少の理由です。南三陸町だけでなく、被災した沿岸部は多かれ少なかれこの住民の転出問題があると思います。当然のことながら、親世代の移動は子どもも一緒です。

震災時、当園の園児数は76名でした。3月の卒園児と4月からの入園児の差は若干の減でしたが、大きく変動する程ではありませんでした。震災後、一時保育を再開した時点では36名の在園児、新入園児であり、公民館での再開後は50数名まで増え、2年間はこの園児数で推移しました。しかし、その間にも上記の通り、復興が遅れていると感じている人にとっては、自宅再建を他市町に求め、年々当町の人口の減少につながっています。もともと過疎地域であり、少子高齢化の波が押し寄せていた我が町でしたが、この震災が一層拍車を掛けました。平成26年度は40名にまで園児数が減り、今後も増加の見込みは余りありません。やはり、高台造成による一刻も早い住宅再建が望まれます。

平成27年度中に現在の仮園舎に増築して、本設化を目指しております。幼児数の減少という問題が



◀大船沢公民館



◀幼稚園仮園舎

あり、前途は厳しく大変な状況に変わりありませんが、あさひ幼稚園に入りたいという子ども達、そして保護者の気持ちに応えるため、尚一層、頑張っていかなければ、という思いであります。

最後になりましたが、ご支援を賜りました多くの方々へ感謝を申し上げ、これからの担う子どもたちを温かい眼差しでお見守りください。(宮城県本吉郡南三陸町・あさひ幼稚園園長／小島孝尋)

新刊 動かして遊ぼう！
**びっくり！おもしろ
しかけ遊び**

ねじれた輪ゴムのしかけや、転がるしかけ、曲がるストローのしかけなど、シンプルなかきかけで愉快な動きを楽しもう！不思議な力と触れ合って遊べます。

立花愛子 佐々木伸 著
定価 2,160円(税込) 26×21cm／80ページ
発行・発売 チャイルド本社

● **※ 好評既刊 ※**

- びっくり!
おもしろ紙遊び
- びっくり!
おもしろ砂遊び
- びっくり!
おもしろ空気遊び
- びっくり!
おもしろ水遊び
- びっくり!
おもしろ光遊び

福島県

福島県における「復興」とは・・・

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故から4年が過ぎようとしています。

本園は太平洋の海岸線から約800メートルの所にあり、震災当日は園の下の道路まで津波が押し寄せました。幸いな事に園は地理的に少し高い所があったので、津波の被害を免れることができました。市より臨時避難場所に指定されていたため、当日は40名ほどの地域の方々が園に避難して来ました。インフラが全てダウンしていましたが、発電機や旧式の対流式ストーブがあったので何とか一夜を過ごすことができました。しかし、在園児の約4割の家が津波で流されてしまい、避難所で途方にくれる保護者の姿は忘れることができません。3月末日にシューズも履いていない子どもたちが多く、卒園式を行い4月には通常より4日遅れで入園式を行うことができ、現在に至っております。

震災の次の日、3月12日には東京電力福島第一原子力発電所1号機が水素爆発を起こしました。14日には3号機、15日には4号機が相次いで水素爆発を起こし、原発周辺の住民に避難指示が出ました。この時から福島県における「復興」という言葉が複雑なものになっています。世界でも稀な原発事故を直接体験することになった周辺の住民は、未だに帰ることもできずに仮の住まいで生活しています。あの時、テレビから繰り返し流れる水素爆発の映像と、聞き慣れない放射線に関する専門用語が住民の心理的不安を増幅し、福島県から他県へかなりの方々が避難しました。特に小さい子どもを持つ世帯の危機感は大きく、避難と言うより一刻も早く脱出しなければという必死な思いでした、と後日ある保護者が話してくれました。食事の面でも、未だに水道水を飲まない家庭や、地元の野菜類を避けて他県産の食材を求める傾向があります。

そのような状況から4年という歳月が経とうとしていますが、他県へ避難した子どもたちの戻りが遅く、また新たな地で生活を営む家庭も多く、福島県の私立幼稚園では震災以来、園児減少に苦しんでいる状況が続いています。本園も例外ではなく、地域が津波で壊滅状況となり園児たちが住んでいた場所のほとんどが危険地帯に指定され住宅再建ができなくなりました。新たな場所に災害復興公営住宅や宅地造成工事が進んでいますが、バラバラになった地域の方々が戻る保障はなく、かつての街並みの復興はありません。そのような状況ですが、地域における唯一の幼稚園として必死になって維持していく思いです。

東日本大震災以来、「復興」という言葉を幾度となく聞きますが、岩手・宮城の両県は進んでいるという印象があります。福島県では、地震津波被害と原発事故という大きな問題を抱えており、特に原発事故は経験のない収束作業を行っており、何年後に収束するのかわからない状況です。二度目の園庭表土、砂場の砂を入れ替えた園もあり、未だに除染を繰り返している福島県では先の見えない状況が続いており、「復興」とは何なのかを深く考えさせられます。

(福島県相馬市・原釜幼稚園園長／高橋 昇)

「いのちを大切にする日」

全日私幼連

全日私幼連では、3月11日の出来事に思いを寄せる日を「いのちを大切にする日」と制定し、3月11日を含む1週間を各園並びに各団体で主体的に取り組むこととします。

日程や取組内容については、それぞれの幼稚園の教育理念や地域の実情等により、各幼稚園において定めお取り組みください。

山 形 県

東日本大震災避難の子どもたちを受け入れて

2011年3月11日の東日本大震災後、5月6日一番初めに避難してきたのが、私の姪の子どもでした。その後、暫くは静かでしたが、1学期終了間際に8名のお子さんを受け入れました。

当時、全国各地の方々同様、私の周りでも被災された各地へとボランティアに行かれておりましたが、当園では先代理事長の逝去に伴い、私が理事長に就任したばかりという時期にあって、自分がボランティアに行くこともできず歯痒い思いでおりました。

被災地へ出向いてのボランティア以外に何か出来ることはないかと模索する中で、子どもたちに心配のない安全に遊べる環境を提供することや、お子さんや保護者の方々の心のケア、更に経済的な面で援助をと考えました。

当初若干名の受け入れを予測し、入園料・保育料等の納付金を全額免除する措置を理事会で決議しました。

福島から車で1時間以内という距離の米沢ですの

で、気付いてみると8月で29名、年度末には40名のお子さんを当園で受け入れておりました。園の運営は厳しい状況でありましたが、困難な状況は皆同じでありましたから、23年度は40名全員の納付金免除を行ったところでした。当園で受け入れた避難の子どもたちは、福島市27名、南相馬市原町区4名、伊達市3名、郡山市2名、本宮市2名、二本松市2名、と全員が福島県からのお子さんたちです。翌24年度には46名、25年度は30名、今年度でも19名のお子さんが在籍されています。

勿論、必然的にクラスの人数が増えたわけですから単独のクラスを作りたいほどでしたが、加配教員の確保や、それらに対する公的支援の見通しもたえず、各担任に理解を求め、正直負担を掛けながらの園生活でありました。そもそも公的支援を期待して実施したことはありませんでしたが、国レベルでの補助金に少しばかりの期待もありました。が期待は外れ、授業料等軽減補助金なるものが設けられましたが、よくよく計算してみると極々僅かなもので

(株)学研教育みらい

東京都品川区西五反田2-11-8
幼児教育事業部

お問い合わせは
フリーダイヤル 0120-833-415

園ぴゅう太のメールサービス

サーバー二重化!

らくらくメール
園から保護者へらくらくメール送信! 組別・個別送信、既読確認もできます。サーバー二重化で、いざという時も安心です。

スマホで

らくらくバスメール
スマートフォンでバスメールを送信! 大きなボタン表示で画面操作もらくらく。タップするだけでメール送信できます。

**ぜ〜んぶ学研に
おまかせ!!**

心機一転!
リニューアル

オリジナル!
**キャラクター
ロゴ**

Flashで
動画!

らくらくホームページ
目的やご要望に合わせて作成し、学研が更新もお電話・FAXで対応します。「お知らせ更新は園で…」というご要望にもシステム併用でご対応いたします。

ありました。

それよりも子どもたちの心のケアが重要と日々心配りをしておりましたが、そこは子どもの世界。我々教師や保護者の心配をよそに新しい環境・初めてのお友だちにすぐに慣れ、何ら変わらない園生活が始まりました。

大半のご家庭がお父さんだけ福島に残しての避難。週末だけ家族が顔を合わせる状態。

1年2年と時が経つにつれ親御さん方の不安が増し、「3年の約束だから福島に戻ってきなさい」、「小学校は福島の学校へ」等。お母さんと子どもの「ずっとこのまま米沢に住みたい」という気持ちとは裏腹に徐々に元の環境へ戻っております。

津波による被害に加えて原発事故による被害も受けた福島の方たちは、目に見えない放射線という恐

怖に不安で一杯な様子を私も日々身近で見えております。被災された方々や避難されて来られた方を受け入れた地域・施設に対する手厚い支援を国として充実していただけるならば、私たちができることも増えるのではと思います。

あれから4年が経とうとしています。当時と何ら変わらない現状、そしてこの先どうなるのか、どうなっていくのか不安が一つも解消されない現在ですが、私たちの当初の思いであった「安心な環境を提供する」ことで、少しでも子どもたちが健やかに成長できたのであればこの上ない喜びです。

このようなご縁で出会えた子どもたちの成長をいつまでも見守っていこうと思います。

(山形県米沢市・かしのみ幼稚園理事長・園長／菅原延昭)

新潟県

花は咲く ～子どもたちの心に～

2011年3月11日、テレビに映し出された驚愕の映像は今でも忘れられず心に残っております。自然災害の恐ろしさとともに、人は命が一番大切であることを改めて考えさせられ、自然の前では誰でもどうすることも出来ない無力を感じ、悲しい思いをしました。そんな中、子どもたちの元気な力や笑顔がどんな時にも心の支えとなりました。自然の力で破壊されても、人の力も負けることなく、この時こそ、力を合わせ命あるものを一人ひとり、心のケアを大切に見守ったこと、この日、この時間に、この子どもたちに出会えたこと、命、安全を第一に保育・教育ができたことで、私たち教師は沢山のことを知り、また一つ大きな勉強をさせてもらいました。これらのことを今後に繋げていきたいと思っております。

大震災の日、私どもの園でも長く大きな揺れを感じて驚き、とにかく子どもたちの安全を確保しようと懸命でした。お陰さまで、新発田市では大きな被

害もなく安堵しました。新発田市では、避難者を受け入れることになり、大きな体育施設であるカルチャーセンターなどに多くの方々が避難して来られました。

私どもに何ができるかと考えていました。避難して来た子どもたちがどんな思いをしているのだろうと思うと、居ても立ってもいられず、子どもたちに対するボランティアをすることにしました。短い時間でしたが、子どもたちとふれあい、いろいろな話をしたり、遊んだりしました。

ボランティア活動をしていくうちに、市内のホテル・旅館などの宿泊施設を、避難者の方々が利用できるように変わっていきました。当園では園バスもありますので、避難先の宿泊施設からも当園に通う希望のある子どもたちを受け入れ、保育することとなりました。かなり多くの方が通園して来ました。在園児と分け隔てなく、楽しくすごせるよう、心の

ケアも大切に一人ひとり丁寧に対応することに専念いたしました。

赤十字などの支援もあり、市内のアパートなどに引越し、個々に生活するようになっていきました。福島でのお友達を誘って新しく入園したり、お父さんやご家族の都合で他県に引越されたりと、この頃にはだんだんと落ち着いた生活となってきたように記憶しています。その後も私どもの園で過ごし、卒園していった子どもたちや、幼い弟・妹も続いて入園して来られています。

新発田が気に入り、新しくお家を建てられたご家族もいます。途中で福島の方へ帰ってから園を訪ねて来てくれたり、お手紙をくださったりと、交流も続いています。

県や市から避難園児に対する援助もなされています。これからも支援が続くことを願っています。

最後になりますが、東日本大震災という大きなことを経験し、人は一人で生きているのではないということに改めて感じました。人と人とのつながりの大切さが一層身にしみ、ここで出会った人たちを一生大切な絆（心の友）としていけるとよいと思います。

子どもたちが健やかに育つため、園としての役割を続けていきたいと思えます。

(新潟県新発田市・わかば幼稚園主任／松田順子)



お家の人によってもらったお弁当を持って園外保育に出かけたよ！お弁当美味しいね！



展示会の学年共同制作で「トトロの森」を作りました。トトロは拾った松ぼっくりで作ったよ！



わかば幼稚園で無事に卒園することが出来ました。小学校に行ってもお友だちをたくさん作って元気に頑張るね！

L25200

子育て・保育セミナー

子どもの遊びの世界を知り、学び、考える！

小田 豊 著

B6上製判 定価：本体 1,200円(税別)

- ・少子化と幼児期の学びについてわかる第1章
- ・子どものことをもっとわかってという第2章
- ・子どものよさをどう見ればよいかわかる第3章

これらを「子育て・保育セミナー」として、すべての大人へ！

L66700

保育・子育てQ&A

保育・子育てQ&A

監修／塩 美佐枝・秋山 仁・小野和哉
編／田邊光子 著／全国幼児教育研究協会

B6上製判 定価：本体 1,200円(税別)

全国から寄せられた子育てについての保護者の悩みに、幼稚園の先生方がやさしくアドバイス。保護者と保育者がいっしょに考え、保育・子育てを楽しめるようにしていく本です。

ひかりのくに株式会社

本社／〒543-0001 大阪市天王寺区生玉町3-2-14 TEL.06-6768-1511代表
支社／〒175-0082 東京都板橋区高島平6-4-1 TEL.03-3979-3111代表

福島県・郡山市で

被災地支援イベントを開催

こどもがまんなかPROJECTでは、東日本大震災の支援活動の一環としてさまざまなチャリティーイベントを行っています。昨年12月7日、福島県郡山市・郡山女子大学建学記念講堂小ホールにおいて「チャリティー・コンサート&絵本のつどい」を開催し、多くの親子づれが来場されました。

第1部の「チャリティー・コンサート」では世界で活躍されているヴァイオリニスト・瀬川祥子さんとピアニスト・広中舞さんによる演奏が行われました。

演奏曲はエルガーの「愛の挨拶」やクライスラーの「愛の喜び」。モーツァルトの「トルコ行進曲」では、ピアノ演奏と瀬川さんの手拍子に合わせて親子で一緒に手拍子をして演奏を楽しみました。モンティの「チャルダッシュ」では、2人から繰り広げられる演奏をじーっと見つめ、聞き入っている親子の様子が印象的でした。

第2部は「絵本の世界」。開催地のご協力により、田村町つつみ幼稚園の円谷康子先生、大槻中央幼稚園の川上むつみ先生が子どもたちが大好きな絵本『ちょっとだけ』と『ぐりとぐら』の2冊の読み聞かせを行いました。

第3部は「復興への願いをこめて」と題する鈴木寛先生のビデオレター。OEC D東北スクールの生徒たちのパリ復興祭での活躍ぶりや、主体性を育む幼稚園教育の重要性がスクリーンを通して語られました。

フィナーレは「みんなで歌おう♪」。大ヒット曲「レ



ット・イット・ゴー～ありのままで～」を瀬川さん、広中さんの演奏に合わせて参加者全員で楽しく合唱しました。

帰りには、全国の子どもたちが自分の夢をテーマに描いたグリーティングカードを参加した子どもたち全員にプレゼントしました。グリーティングカードの中には、子どもたちの夢を咲かせてほしいという願いをこめて花の種（シードペーパー）が同封されていました。

こどもがまんなかPROJECTは被災地支援のために来年度もさまざまな活動を展開してまいります。引き続き、皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

(こどもがまんなかPROJECT座長・尾上正史)

就園奨励費関係予算 402 億円

前年度比 63 億円 (18.6%) の増額、初の 400 億円を突破

国・地方併せて事業費総額は 1,200 億円

幼児教育の無償化へ向けた就園奨励事業の大幅拡充

<平成 27 年度就園奨励費関係予算のポイント>

「子ども・子育て支援新制度」へ移行する幼稚園を含めた幼稚園就園奨励費に係る予算全体の所要額 339 億円⇒ 402 億円 (国・地方併せた総事業費約 1200 億円)

1. 全ての市町村で就園奨励事業が確実に行われるための措置

[国・地方併せて約 150 億円増]

市町村に対する補助の拡充を行い、超過負担を解消することにより、全ての市町村において、全ての園児に等しく確実に支援が行われるよう環境を整備

2. 市町村民税非課税世帯 (推定年収約 270 万円未満) の保護者負担軽減

[国・地方併せて約 45 億円増]

市町村民税非課税世帯の保育料を月額 9,100 円 (平均) から 3,000 円に引き下げ

1. 就園奨励事業の全体総額は国・地方併せて 1,200 億円へ

全日私幼連では、約 500 万人の皆様からの署名を支えとして、全ての子どもに質の高い幼児教育を保障することを目指し、幼児教育無償化の実現に向けて、香川会長を中心に、強力かつ懸命な予算確保の運動を精力的に展開してまいりました。

この結果、平成 27 年度予算については、就園奨励費関係予算は、国費で初の 400 億円を超え、国・

地方併せて事業費総額は 1,200 億円となる見込みです (額は新制度移行分を含む)。就園奨励費は平成 21 年度予算の国費が約 200 億円であったことを考えれば、この数年間でおよそ 2 倍の規模に大きく拡充が図られたこととなります。

2. 全ての園児に等しく確実に就園奨励費の恩恵を

幼児教育がその後の教育の基盤であることを考えれば、全ての市町村において、全ての園児に等しく

確実に就園支援が行われることが必要です。

しかし実際は、就園奨励事業を実施する市町村のうち、約 1/4 の市町村が国の支給水準を下回って実施するなど、市町村の財政力等によって就園支援の内容に差異が生じているのが現状です。

全日私幼連として、この事態を重く受けとめ、全国市長会に働きかけを行い、全国市長会の「国に対する義務教育施策等に関する提言」（平成 26 年 6 月 4 日付）において、幼稚園就園奨励費について一層の支援措置を講じることが盛り込まれるなど、全国市長会としても国に対し幼稚園就園奨励費補助事業の拡充について要望が行われました。

また、全日私幼連として、各市町村に対して、国の支給水準に従って就園支援を行うよう強く要望するとともに、国に対しては、下村文部科学大臣に「幼児教育無償化の推進に関する要望」（平成 26 年 11 月 26 日付）を提出し、市町村が安定的に就園奨励事業を実施できるよう、当該事業への補助拡充について訴えてまいりました。

このように、全日私幼連としても精力的に活動を続けた結果、国の平成 27 年度予算において、市町村の就園奨励事業に対する国の補助が拡充（事実上 2/7 補助から 1/3 補助に）されることとなりました。これにより、居住する市町村に関わらず、全て

の子どもが確実に就園奨励費の支援を受けられるような環境整備が図られます。

3. 無償化に向けて保育料の軽減が更に前進

また、平成 26 年度から低所得世帯への支援として、生活保護世帯の保育料が無償とされていますが、平成 27 年度予算においては、無償化へ向けた更なる支援策として、市町村民税非課税世帯の保育料が月額 9,100 円（平均）から 3,000 円に大きく引き下げられることとなりました。

この軽減措置の対象となる子どもは約 11 万人（全幼稚園児の約 7%）であり、幼児教育の無償化に向けて更なる一歩を踏み出すものになると考えます。この軽減措置により、子ども・子育て支援新制度において生じていた 1 号認定子どもの保育料が 2 号認定子どもよりも高いという問題が解消され、1 号認定子どもと 2 号認定子どもの保育料の均衡が図られることとなります（市町村民税非課税世帯の保育料：1 号認定子ども 3,000 円、2 号認定子ども 6,000 円）。

理事長・園長・副園長・主任…保育現場をマネジメントするすべての保育者のために

園の未来をデザインする 保育ナビ

月刊保育雑誌

定価：本体価格 926 円 + 税
B5 判 72 ページ

3月号の主な内容

特集 今、保育における感情リテラシーを考える 職員が“辞めない”職場、“育つ”職場とは？

- 園の未来が見えてくる 保育の夜明け
新制度時代の保育を考える 問われる教育と福祉の統合
- 国の動きを読む！ 研究者の目
「保育」「教育」「学校教育」の用語の整理
- スピーチ実践術！卒園式／修了式 ほか

・人材育成の連載が充実！
・特集記事、連載記事の連動企画が
Web で読めます！
「保育ナビ」で検索！

※表紙・内容は変更場合があります。



ISBN978-4-577-81365-2 743

ご注文・定期購読のお申し込みは下記まで
03-5395-6608 営業推進部

本社：〒113-8611 東京都文京区本駒込 6-14-9 <http://www.froebel-kan.co.jp>

キンダーブックの
フーベル館

私学助成予算（幼稚園関係） 303 億円

<平成 27 年度私学助成予算（幼稚園関係）のポイント>

1. 一般補助

○幼児 1 人当たりの単価アップ + 1.0%（平成 26 年度は+ 0.9%）

2. 特別補助

○預かり保育推進事業 35 億円

・基礎単価を 2 年連続で増額〔65 万円→ 70 万円〕

○障害のある幼児の受け入れに対する支援 50 億円

・都道府県からの申請に満額対応へ

1. 子ども・子育て支援新制度へ移行するにあたり、一般補助の新制度への移行額は約 42 億円（移行率約 18%）ですが、公定価格による減収が見込まれる園などへの緊急避難措置を考慮し、移行額を 36 億円にとどめることとされています。

2. さらに、一般補助については、平成 27 年度の園児数が約 1 万 5 千人の減との見込みであり、予算の自然減額は△ 3 億円となるところですが、これについては、昨年度を上回る単価アップ 1.0%（23,005 円→ 23,235 円）を図ることにより△約

1 億円となっています。

3. 特別補助については、障害のある園児への支援経費を昨年度に引き続き、大幅増額（+ 6 億円）することとされ、これにより、平成 24 年度から平成 27 年度の 4 年間にかけて、約 57%の伸びとなっております。また、預かり保育への支援経費については、新制度への移行に伴う支援園数の減（△ 9 億円）をそのまま私学助成で活用することとし、基礎単価の増額（+ 5 万円）を 2 年連続で行うなど充実した予算となっています。

都道府県の耐震補強補助事業にかかる

地方財政措置が初めて創設される

- 幼稚園施設の耐震補強工事について都道府県が国庫補助事業と併せて補助する場合、「緊急防災・減災事業債」の対象に追加。
- これにより都道府県が耐震補強の補助事業を実施しやすくするよう国が財源措置。
- まだ耐震補強事業の補助制度のない道県連は、直ちに、道県当局に補助制度創設の要望を。

地方交付税の経常費園児1人当たり単価が判明 対前年度1.3%アップ 国庫補助金とあわせて178,435円

地方交付税総額▲0.8% 社会保障等を除く一般行政経費▲1.2%の
厳しい財政事情のなか格段の地方交付税措置を達成

■私立幼稚園等の経常費助成に係る財源計画

○園児等1人当たり単価

(単位:円)

	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	伸び率	金額
幼稚園	地方交付税	146,800	148,600	149,400	150,900	153,200	155,200	1.3%	2,000
	国庫補助金	22,587	22,619	22,642	22,800	23,005	23,235	1.0%	230
	合計	169,387	171,219	172,042	173,700	176,205	178,435	1.3%	2,230
小学校	地方交付税	253,100	255,400	256,800	259,400	262,800	266,200	1.3%	3,400
	国庫補助金	44,116	44,487	44,531	44,843	45,157	45,609	1.0%	452
	合計	297,216	299,887	301,331	304,243	307,957	311,809	1.3%	3,852
中学校	地方交付税	253,100	255,400	256,800	259,400	262,800	266,200	1.3%	3,400
	国庫補助金	45,772	46,087	46,133	46,456	46,781	47,249	1.0%	468
	合計	298,872	301,487	302,933	305,856	309,581	313,449	1.2%	3,868
高等学校	地方交付税	253,400	255,900	257,300	259,900	263,300	266,700	1.3%	3,400
	国庫補助金	52,743	52,905	52,958	53,329	53,702	54,239	1.0%	537
	合計	306,143	308,805	310,258	313,229	317,002	320,939	1.2%	3,937

このように、平成27年度予算については、幼児教育無償化に向けて大幅の予算の増額を図ることができました。

政府に対する要望活動等でご協力をいただきました都道府県私立幼稚園団体や先生方の皆様には、執行部一同心より厚く御礼申しあげます。



くるんとバス

-通園バス位置情報システム-

バス専用機不要!
スマホで簡単バス運行管理!

いつもNAVI

「いつもNAVI | 動態管理サービスfor送迎バス(くるんとバス)」は、株式会社ゼンリンデータの登録商標です。

「くるんとバス」はスマートフォン・タブレットのGPS機能を活用したシステムで、バスの運行情報や到着メール・ルート作成等を提供するクラウド型サービスです。

株式会社 **チャイルド社** インターネット課

TEL.03-5370-7497 〒167-0052 東京都杉並区南荻窪4-37-15
ホームページアドレス <http://www.child.co.jp/>

公益財団法人全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

平成 26 年度全国研究研修担当者会議

公開保育コーディネーター養成講座開かれる

1月21日・22日 京都府京都市

去る1月21日・22日、京都府京都市の京都ガーデンパレスにおいて（公財）全日私幼研究機構の平成26年度全国研究研修担当者会議・公開保育コーディネーター養成講座が開催され、全国から養成講座の受講者と都道府県研究研修担当者等あわせて140名の先生方が出席しました。会議の概要は次の通りです。

○1日目／21日

報告：「研究研修委員会の取り組み」について

安達讓・研究研修委員長

記念講演：「乳幼児期からの発達と保育」

加藤繁美・山梨大学教授

公開保育コーディネーター養成講座

安達讓研究研修委員長、宮下友美恵研究研修副

委員長、岡本潤子研究研修委員会専門委員、秦

賢志研究研修委員会協力委員

○2日目／22日

公開保育コーディネーター養成講座

岡健・大妻女子大学教授

▶記念講演



▶公開保育コーディネーター養成講座



優れた芸術家の作品を、
子どもたちの生活環境へ。
見て、触れて、感じながら、
子どもたちの心は、
大きく羽を広げます。

「喜ぶ少女」

株式会社 ジャクエツ

www.jakuetsu.co.jp

Jim Grieve、Sandra Collins、田熊美保討議動向

(公財) 全日私幼研究機構 縦断研究チーム 平林 祥

〔司会〕 今日一日の講演を振り返りコメントをお願いしたいと思います。

〔ジム〕 ニュージーランド（以下、NZ）では、世界中の国が実施したいと思っているけれども実施できていない「外部評価を通じた質の改善」という事業を既に25年に渡って継続しており、素晴らしいことだと思います。サンドラと話す中で、教育業界に信頼される研究／評価の組織を作り上げるには、大変時間がかかるということを実感しました。信頼を得るためには、ただ研究をするだけでなく、研究結果に沿った評価を行い、評価後の支援や連携も含めて大きな努力が必要です。

サンドラの話の中で、7年間（良くない意味で）全く変わらない園の話がありましたが、私も何回訪れても変わらない園と出会った経験があります。サンドラは、外部（external）評価を永久（eternal）評価とスライドで打ち間違えたと言っていました。評価をしても保育現場の実態が変わらなければ、いつまでの評価をし続けなければならないという点で、永久評価というのもあるが間違いではないのではないかと感じました。

〔サンドラ〕 ジムの講演を聞き、カナダの13の州と地域で統一性・一貫性のある乳幼児教育保育（以下、ECEC）部門であるために、共通理解を図ろうと日々努力されていることが非常に心に残りました。

また、ECEC施設の職員の専門者集団を構築して、職員の専門性と地位の向上のための支援をされている点は、NZでもぜひ見習いたいと思いました。職員の学びの共同体を築くことは、質の向上に役立つ

と確信するからです。

さらに、子どもの学びにとって本当に大切なことに焦点を合わせ、脳の発達や遊びを中心とした保育、保育者の問いを起点とした遊びの展開など、詳細な情報を入手可能な形にして保育者に提供している点が素晴らしいと思いました。

もう一つ、半日制から全日制に移行したことが、学び手である子どもにどのような効果を与えたのかを、EDIを指標としたデータで分かりやすく提示したことから学びたいと思います。現在、NZにおいてECEC部門は14億ドルの投資を受けていますが、政治家にどれだけの効果があがったかを問われたときに、その効果を明確に示すデータが充分ありません。OECDに参加することで、カナダのような国から学ぶことは非常に大切であると私が考えるのは、こういう点にもあります。

〔ジム〕 田熊さんの指定討論に対してコメントします。我々にとってOECDのECECネットワーク会議が大切なのは、多くの国の有能な政策決定者と、政策として適切な方向について豊かな議論をする場であるからです。その議論から出てきたテーマとしては、例えば保育実践や義務教育との接続、アウトカム（成果）の測定などがあります。

特に、アウトカムに関しては、何をどのように測るのか、認知的技能だけで良いのか、非認知的技能も測る必要があるのか、といった点に興味が集まっています。カナダのEDIという指標では、社会情緒的技能の測定も一部含まれますが、それも他の国でどこまで適用できるかという問題があります。アウトカムに関してどのような見通しで議論を進めていくか、2015-2016年で結論が出るように進めて

いるところですよ。

〔サンドラ〕 私は OECD の ECEC ネットワーク会議に 2012 年 6 月から参加しています。それまでは、NZ の幼児教育評価局（以下、ERO）は政策決定機関（＝教育省）ではないために参加していませんでした。質がテーマになったこともあり、教育省に招かれて参加するようになりました。ERO の仕事である評価を含む「質のモニタリング」について、国際的に自分たちがどのような立ち位置にあるかを知ることができましたし、評価について他国の政策に貢献することも、他国から学ぶこともたくさんあります。NZ の外部評価システムはまだまだ改善の余地があり、これからも学ばせてもらいたいです。

〔田熊〕 アウトカムに関して OECD では現在、アウトカムとして各国が既に測っている事例はどういうものかを調査しています。例えば、「何歳」で測るか、が 1 つの基準になります。3 歳か 4 歳か、5 歳なのか。2 つ目は、「何を」測るのか。読み書き等の認知的技能か、あるいは社会情緒的スキルか。3 つ目は、「どのようなツール（手法）」で測るのか。その手法は妥当性と信頼性を確保しているものなのか。4 つ目は「測る方法」。本人がテストを受けるのか、その子どもをよく知る ECEC のスタッフが測るのか、またそれを補完する形で保護者の評価を入れるのか。5 つ目として、それぞれの測り方には必ず「コスト」がかかり、そのコストをどう捻出するのかという問題もあります。6 つ目には、「公表の有無」があります。政策策定者の意図はどうあれ、アウトカムの結果が出ればメディアはそれをランキングとして使う可能性があります。OECD は各国の基準・標準と見なされる面があるので、そういったことを踏まえて公表の有無は問題になります。このように様々な質問が既に出ているなか、各国ではどのような事を行っているのかをまず調査して、その後国際的にそれを比較する意義を検討する、という非常に長い期間の仕事になってきます。

ここで重要なのは、ただデータがないからデータを集めるのではない、ということです。子どものア



ウトカムに関する証拠がないために、子どもに投資されないという事がないように、「子どものための政策」を立てるために必要だからデータを集める、ということが出発点になります。

〔ジム〕 ミホの提示は問題の核心を突くものです。この議論は非常に難しく、考え続けるほどに答えから離れていくようで悩ましい限りです。私は保育実践でもプロダクト（産物）よりもプロセス（過程）を大切にしていますが、この議論でも、何が大切かを共通理解するために各国の政策決定者が議論するプロセスがとても大事だと考えています。

しかし、いずれはプロダクトとして指標を作る必要があります。それは、うまくやっている国同士で情報のやりとりをするためにも必要だからです。2015-2016 年の報告書の作成までに、OECD はいくつかの議論には決着をつけて、それらに最終回答を出すべく動いています。

その答えを探すにあたり、私個人が大切だと思うことは、子どもと子どもを比較したり、カナダの子どもと日本の子どもを比較するのではなくて、一人の子どもが一定の時間のなかでどのように成長しているかを見ていくことです。子どもが何に興味を持ち、何を学び、それらが時間の経過に伴いどのように変化していくかを見ていくのです。これは、教師や親がいつもしていることですが、政府として追跡するためのデータセットはなく、非常に時間とコストのかかる大変な仕事です。しかし、最終的にはそれができたらいいなと個人的には思います。

〔サンドラ〕NZでは、子どもの学びの姿勢に焦点を合わせているため、アウトカムの枠組みの導入には抵抗してきました。昨日見た、列車を丁寧に描いていた男の子の例で言えば、彼の根気強さや細部への注目、内的動機づけなどに目を向けているのです。別のレンズを使えば、例えば模写の正確さなどを評価することもできるでしょう。認知的技能をどう定義して、どのように測定するのかは、認知的技能の測定に移行する際に直面する課題です。

私たちは、もしアウトカムを測定するのであれば、そこから逆算してシステムや実践、プロセスのどのような要素がその育ちに寄与したのかを学ぶことで、質のさまざまな側面を知り、政策決定に活かしたいと考えています。

もう1点、アウトカムを測ることでの意図しない結果についてです。NZでは現在、より高い子どもの育ちを支えた施設により多くの予算を与えるような制度があります。アメリカでも同様の制度があります。これは果たして良いことなのか、慎重に考えなければなりません。

〔田熊〕なぜOECDでアウトカムを扱うのか、その背景を3点お話しします。

1点目は、Added Value Model（以下、VAM）という仮説がありまして、実際にVAMを測ろうとしているイギリスの研究グループがあります。た

だ、VAMの目指す方向は良いのですが、測る対象が識字や計算など認知的技能に限られていて、先ほどサンドラが言った社会情緒的スキルなどは測定できません。

2点目は、では社会情緒的スキルなどの非認知的スキルをどう測っていくのか。OECDには研究に特化した課があり、そこでは社会情緒的スキルを測るツールを開発しているところです。彼らの研究結果も使いながら、進めていきたいと思えます。

3点目は、朗報と苦悩の裏合わせですが、朗報は、多くのOECD諸国でECECに対する公的資出が増えていることです。2013年の“Education at a Glance”を見ても、学校教育の予算が圧縮されるなかで、ECECの予算は平均すれば増えました。予算が増えるということは、その対価として政府から説明責任を求められるということです。各国の財務省が、教育省に対して予算増額した見返りは何かと問うてきたとき、エビデンスとして何があり、何が良かったのかを明確に出さないと、投資をし続けてもらえなくなります。それがあって、各国の教育省行政官はOECDのECECネットワーク会議に集まり、どのような戦略・戦術をとるかを話し合っているのです。

* * *

今月号で乳幼児教育国際シンポジウムの報告記事の掲載は終了となります。



こども園への移行？ 0・1・2歳児保育を導入？ 保育の質の向上は？

選ばれる園になるために

～変革のビジョンと実践22例～

保育施設の未来がこの本に！

保育施設の“機能と質”を考える。
22園の変革ビジョンとプロセスを一挙公開。

私立幼稚園経営者懇談会・著
248ページ／税込4,320円
世界文化社刊／4061301

株式会社 世界文化社 ワンダー営業本部
TEL：03-3262-5128 FAX:03-3262-6121

豊かな体験を学びにつなげる教師の役割

河原 智美 (内山下幼稚園)

湯澤 美紀 (ノートルダム清心女子大学)

小橋 美香 (内山下幼稚園)

高橋 正美 (内山下幼稚園)

1 発表の概要

(1) 主題設定の理由

幼児の遊びの中での多様な学びの芽を教師はいかに育てていくことができるのかということが課題に上がった。そこで、「幼児が「わくわくしている遊び」に着目し、そこにある学びの意味を読み解き、豊かな体験につなげる教師の役割を考えることにした。

(2) 取り組みについて

幼児が「わくわくしている遊び」を共通のキーワードとして、エピソードを記述し、実践事例としてまとめた。園外の保育領域の専門家2名が加わり、エピソードを中心としたカンファレンスを月に一度、実施し、「教師の役割」について考察を深めた。

(3) 実践例

集めた事例の中から豊かな体験が学びにつながったと思われるものを選び、日常的な遊びを中心としたものと3学年共通の遊びのものにまとめた。その中で、幼児の発達の違いも踏まえ、発表した。

(4) 反省と考察

○信頼関係づくり

3歳児にとって教師の存在はとても大きく、教師と一緒にいることで安心して園生活を送り、楽しむことにつながる。4歳児・5歳児では、友達や教師に「認められている」という安心や自信が友達を「認める」ことにもつながる。この信頼関係の広がり仲間づくりの基礎であると思われる。

○幼児の思いの肯定的な読み取りと遊びの展開

幼児一人一人の内面を読み取り、教師自身が「わくわく」を感じながら幼児のしていることに肯定的に付き合っていくことが、その後の活動の継続や盛り上がりにつながった。

○環境づくりと教材研究

幼児のそれぞれの姿に合わせた環境構成に、実際に使う材料や道具の工夫は欠かせず、教師の日常からの教材研究が活かされていた。また、環境づくりでは幼児の「やりたい」をキャッチし、絶妙なタイミングでの環境の準備や構成が幼児の遊びへの意欲をさらに高めた。

○異年齢交流と場づくり

幼児は遊びを通して互いに認め合い、意見を出し合い、協力し合う姿へと育つ。また、異年齢のかかわりを通して学びや自信・満足感を培う。異年齢交流の場をつくっていくためには、教師による場の計画、教師間の連携の積み重ねが重要である。

○幼児が育ち合える空間ときずなづくり

3歳児からの教師の意図あるかかわりが重要であり、5歳児になると、学年の枠を超えて友達と「何間」というきずなで結ばれていく。一人一人が役割を担い、自分の力を発揮するようになっていたり、思いを伝え合ったりしながら協同的遊びが展開されるようになる。教師は、そのような幼児の姿を見守り、活動を見極めながら心情的、物的に支えとなるように努め、育ち合える空間をつくっていく。

(5) 研究のまとめと課題

○教師としての専門性の向上

事例を通して教師の役割を明確にしたことで、『幼児の言葉や表情をキャッチし、肯定的にかかわること・受け止め待つ姿勢・体験や遊びに見通しをもつこと』が教師の専門性であると明らかになった。今後も意識しながら幼児に向き合っていくことで、幼児の育ち合える場や学びの場を意図的につくり、情緒的に豊かな環境的な支援をしていきたい。

○教師集団の学びの風土づくり

研究主題を教師間で深く丁寧に分析し、「わくわくした遊び」をキーワードとしながら、幼児の遊びや体験をとらえていくことで、教師が同じ方向を見て、幼児理解を深めたり、それらを踏まえうえで保育の進め方を共に検討したりすることができた。また、反省や評価をしながら、体験活動の見直しを行い、教師の援助や役割について議論することができた。

○保護者との連携

「わくわくした遊び」についてのドキュメンテーションを園内に掲示し、配布物、保育参観、ボランティア活動などにより、幼児期の体験の豊かさとそこにある学びの芽を保護者に伝えることができた。

○成果をいかに保育実践につなげていくか

今回得られた教師の役割を意識しつつ、日々の実践へ活かしていけるように幼児の学びを意識した保育計画をたて、実践していきたい。

2 共同研究者講話

研究を核とした研修のあり方を追求

本研究に継続的に携わった共同研究者の立場から、研究を核としながら研修を進めていく上で、工夫され、また生み出されていった種々の学びの仕掛けが紹介され、本研究を通じた教師の育ちのストーリーが解釈された。

(1) 本研究がめざしたもの

本研究が研修として目指したものは、「『個』としての力量形成」と「『集団』としての同僚性の発揮」であった。

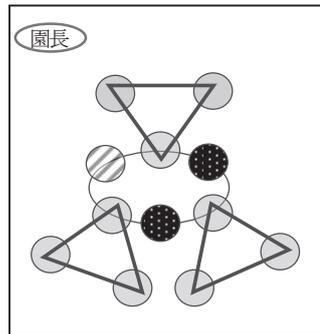
(2) 学びの仕掛け

○研究のフレームづくり

3つのトライアングルを学年間の交流、中央の円を園全体の交流とし、エピソードを中心として、それぞれ意見交流できるような枠組みを共有した。

園長の役割、保育領域の専門家の役割を明示した。園長を、研究を俯瞰的に見守る位置づけにしたことにより、それぞれの役割が明確になった。

3つのトライアングルを明示した。若い教師も含め、すべての教員が役割を得たことで、様々な場面で、意見を述べる機会が増えた。



水玉：保育領域の専門家
ストライプ：研究主任
灰色：教師

○園長の役割

一人一人の先生の意見を尊重し、信頼して一歩引いて見守っていた。

困った時や悩んだ時、具体的な支援を与え、心のゆとりがもてるよう、時には目に見えない心遣いを行い、意見を交わし合えるような園の風土を作り出すよう努めていた。

具体的に学びの仕掛けをかけていくというようなことと、先生たちが主役となって安心して意見を言い合えるような環境づくりを行っていた。

○教師間の学びの仕掛け

日々の子どもの遊びを図面的に見逃していくのではなく、写真に撮ることで一つの場を心に留め、それを提示しておくことで日々の幼児の遊びを教師間で常に意識化した。

教育講演会の機会を活かし、「幼児教育とは何か」や、研究の概要やエピソードを保護者に伝えていった。これは、園の研究と保護者をつなぐ園長先生のリーダーシップにより、実現した。

(3) 本研究の育ちのストーリー

○実践の省察力

「子どもって面白いね」「素敵だね」とどまらず、それにどういう意味があるのかというところを、文脈によって省察できるようになった。

○「楽しくなくっちゃ保育じゃない」

研究を核とした研究を積み重ねてきたことにより、「ちょっと困ったな」という場面でも、「何か面白いことになりそう」と教師自身がワクワクを感じながら待てるようになった。「楽しくなくっちゃ保育じゃない」という意識をもとにした創造的な営みとしての保育実践が可能になった。

○学びの原点の追及

“学び”とは人とかかわる力・意欲的に活動する力が発揮されるところを捉えながら何を学ぶのかではなく、どのように学ぶのが大切である。人とかかわったり、意欲的に活動したりする中で伝えたいという思いが生み出されていき、認め合える関係が構築されていく。これこそが学びの原点であり、教師はそのことに自覚的に気づいていった。

○学びの土台づくり

教師は教育的に配慮しながら、信頼関係・幼児理解・環境構成し、子どもたちが育ち合う学びの土台づくりを行っていった。幼児期の子どもの学びの力が発揮できる環境づくりとして、子どもたち同士の交流の場の創出を園全体で共通認識できるようになった。

○子どもの体験・教師の体験

本研究には、子ども自身が生まれる静かな感動や大きな感動に、ともに心を動かされた教師の感情体験があった。子どもの中にあるセンス・オブ・ワンダーを呼び覚まし、またそこに共感できる教師の存在が、子どもの心の育ちに何より必要となる。子どもと教師がともに生み出す学びの原点が本研究の中にあった。

3 協議

「エピソード記述」の方法や、「同僚性」について質問があがった。また、発表を受け、未来に向けたより良い園内研修のあり方について具体的な手立てが話し合われ、発表者ならびに参加者にとって教師としての専門性の向上につながる有意義な協議が行われた。

(公財) 全日私幼研究機構・第5回幼児教育実践学会

タイトル：自発的な遊びの大切さ

サブタイトル：子どもが育つコーナー遊び

発表者：司馬政一（清明幼稚園）伊藤あゆみ（清明幼稚園）松島かおり（清明幼稚園）古山栞（清明幼稚園）

【はじめに】

子どもにとって、生活そのもので学びそのものである遊びについて、没頭して、夢中になれる環境をどう構成していくかを中心に日々の保育が進められている。保育が進められている。自発的遊びによって、社会性、創造性、集中力、協調性、夢など、心と身体が育つことを保護者もしっかり理解いただくことで、子どもが主体的に『遊び込めること』を大切にしているところを発表した。

幼稚園教育要領のとおり、幼稚園が小学校の予備校として先取りをするのではなく、子どもたちの心を育て、将来しっかりと自分の人生を生き抜く力の元を、今の時代だからこそ育てるべきだと考える。本園では、保育者が適切な援助をしながら集団生活を中心に園生活全般を自発的で意欲的に向かう姿勢を大切にし、必要な経験を積み重ねていく保育を目指している。



【園の概要】

各学年4クラスの計12クラス、310名の子どもたちが通園している。極力、自然の光の中で過ごしてほしいとの願いから、全面ガラスのテラスがあり、ぶどうの木が子どもたちを優しく見守っている。保育室のドアやフロア側の壁などもガラス面を多用し、開放的空間になっていて、保護者も保育が見やすい環境構成になっている。何より特徴的なのは、廊下を作らず『こどもの城』としてすべてが遊び場になっていて、保育室以外の場所を広く取り、コーナー活動を行っている。

【1日の流れ】

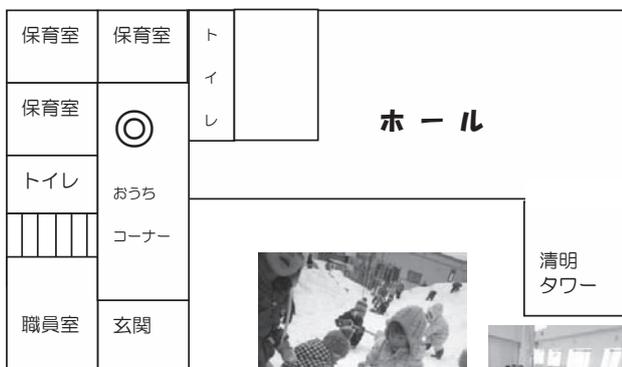
7:40～ 8:30～ 9:00～ 10:30 12:00 13:20 14:30～ 19:00

早朝 保育	登園 各バス1コース 徒歩コース	コーナー活動 各バスコース 順次登園	片付け	クラス活動 昼食	降園 各バス 1コース	コーナー活動 各バスコース 徒歩コース順次降園	延長 保育
----------	------------------------	--------------------------	-----	-------------	-------------------	-------------------------------	----------

【コーナー活動とは】

清明幼稚園では、好きな遊びを自主的に選択し、異年齢との交わりもある中で、遊び込める【コーナー活動】と、同年齢の交わりを通して、担任自身が責任を持って子どもを見取り、適切な支援や援助を行う【クラス活動】とを融合させた保育を進めている。また、自然体験活動を通して小さな気づきや感動、驚きや温もりを感じる場面にも多く遭遇できるよう配慮している。

1F



2F



【各コーナーの年間予定】

各コーナーは、あらかじめ年間計画をベースに組み立てられている。ただし、その時の子どもの興味や関心、個性に合わせてその都度変化していく。そのため、特に新人教諭にとっては経験がないことで想像がつかず、苦勞する様子が見られる。また、環境構成上、保育者の発想の豊かさを持った柔軟な姿勢のもと、遊びの広がりを求められている。なお、幸いなことに北海道は四季がはっきりしていることから、冬期間の戶外遊びも大変充実していて、五感を使った遊びが時期を問わず繰り広げられるところに、地域の強みを感じる。

《下記は、参考資料として配布したカリキュラムです》

平成26年度		コーナー案 ・ 活動計画												
		～25年度の活動実績を土台に計画しています～												
		パネルの内容は赤字の所です！！												
ねらい		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
ホール	◎体を動かす楽しさを感じ、挑戦する気持ちを持つ。	・体を十分に使って遊ぶ。					・自分のしたいことを見つけ意欲的に参加する。 ・友達や異年齢との関わりを深め、体を使って遊ぶ。					・友達や異年齢との関わりを深めながら、意欲的に体を使って遊ぶ。		
		踊り トランプ サーキット トンネル 個人用縄跳び ハカボコ 清明タワー	長縄跳び 跳び箱(大・小) かっこ ろく木 運動会ごっこ (リレー、玉入れ、踊り、綱引き) (カラー積み木)					発表会ごっこ トレインごっこ				鉄棒		
外	◎植物を身近に感じ、成長と収穫を楽しむにする。 ◎自分で収穫し、素材本来の味を味わう。 ◎素材を活用し、作る楽しさを感じる。 ◎戸外で遊ぶ気持ちよさを感じる。	・沢山の体験を通して外遊びの楽しさを知る。					・季節ならではの遊びを楽しむ。 ・友達や異年齢との関わりを深め、体を使って遊ぶ。					・寒さに負けず、冬ならではの遊びをダイナミックに楽しむ。		
		虫探し 砂遊び(スコップ、バケツ、カップ、ふるい、食器、錫類) 固定遊具 鉄棒(逆上がり補助機) 外用器人縄跳び 長縄 ハカボコ 土作り・種まき・苗植え	泥・水遊び(スライムクレーパーール) 洗剤ごっこ(ビニールプール、台車) 収穫・クッキング				やきいも サッカー 野球 種まき・畑片付け 遊具片付け 落ち葉遊び				雪遊び(米袋そり、スコップ、チューブ 雪中サッカー 色雪遊び(綿の具、バケツ) アイス作り シューベト作り)	デスクマット		
1階・おうち	◎友達とイメージを膨らませながら、ごっこ遊びを楽しむ。 ◎最後までじっくりと取り組み、満足感を得る。	・友達と一緒に自分の好きな遊びを楽しむ。(連続児) ・おうちコーナーや周辺フロアでの遊びを経験し、好きな遊びを見つける。(新入児)					・体験を基に季節の雰囲気を感じながら、遊びを楽しむ。 ・継続した遊びにじっくりと取り組み。					・体験を活かした遊びを友達と一緒に楽しむ。 ・出来上りをイメージし、最後まで取り組む。		
		《みんなのおうち》 《にっこにこ教室》 《わくわく広場》	模擬食品(扱いやすいものから順次)、おでん 洋服(エプロン、ネクタイ、スカート) カメラ 布、バスタオル バッチ コップ 糸風 ぬいぐるみ あかちゃん、スヌーン、フォーク 赤玉	はっぴ、はちまき、浴衣、帯 カチューシャ・ヘアゴム コースター、バッグ 一つ結び(リストバンド)			ベビーカー、ドレス、タキシード レストランごっこ			ちゃんちゃんこ ハロウィン変身セット 指編み	ランドセル			
くまのぼり	◎作ることを楽しむ。 ・どの年齢の幼児も自発的に作ることが出来るよう環境を工夫し、援助していく。 季節や行事と絡めた題材を取り入れる。	・作ることに興味を持ち、やってみようとする。					・イメージを膨らませて作る。					・イメージを実現するために工夫しながら作る。		
		セロハンテープ ちらし遊び 商材 スヌランテープ 粘土	のり、はさみ 《描画コーナー》 《新聞紙コーナー》	セタ	お店屋さんごっこ、商品作り、お金(あそぼうDAY)			《ハロウィンコーナー》 ピーター先生と変身グッズ作り			《郵便コーナー》 クイズ大会・はがき・ポスト 《クリスマスコーナー》 ツリーに飾り付け			
絵本	◎おはなしに親しむ。 ・落ち着いた雰囲気や、絵本や紙芝居に触れられる環境を作る。 ・おはなしの世界で遊ぶことのできる想像力を養う。 ・聞く力を育てる。	・教師の読み聞かせに興味を持つ。					・絵本に選んで聞かろうとする。					・絵本や紙芝居を通して、イメージを膨らませる。		
			《絵本・紙芝居》 ・お弁当 ・運動会 ・幼稚園の生活 (ねこ・いぬ等動物の作品を集めたこともある)	海	おばけ	お月見	ハロウィン	クリスマス	お正月	干支	まめまき	ひな祭り		
その他	◎各行事の体験を通し、それぞれの年齢に応じて意欲や内容について導入(保育者の話、催しの内容、紙芝居、ペープサート等)し、興味を持てるようにする。 ※それぞれ特色があることを踏まえる。	入園 子どもの日	運動会 セタ			お月見 祭り	ハロウィン	発表会	クリスマス おもちゃ お茶コーナー	お正月	豆まき	ひなまつり 卒園、進級		
			こいのぼり、五月人形			お月見飾り おみこし	発表会用ステージ	お茶コーナー クリスマスツリー				ひな人形		

日本私立学校振興・共済事業団の融資

幼稚園の経営者のみなさん、こんなお悩みはありませんか？



園舎が古くなったので、安全性を考えて建て替えたい

○平成27年度まで限定の、耐震に関する低利融資制度です。ぜひご活用ください！

対象

○旧耐震基準の園舎の建て替え
耐震化促進のための補助金の
対象となる改築事業

耐震改築長期低利融資

〔私立学校施設整備費補助金
安心こども基金等〕

○耐震補強工事・非構造部材の
耐震対策事業

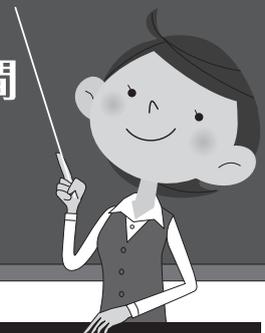
防災（耐震）機能強化のための
補助金の対象となる改修事業

防災（地震）対策費（耐震改修特別融資）

事業団の長期低利融資

この融資制度は

全借り入れ期間
0.5%の
固定金利です。



融資上限＝補助対象事業費－補助金

※ 補助金の対象となっている事業に
対してご利用いただけます。



かわいい園バスが買いたいけど資金が…



○通常の融資もご相談ください。

低利・固定金利
借入期間はなんと！
最長20年

返済方法は
利息負担の少ない
元金均等返済

融資金利表

平成27年2月1日現在

融 資 費 目	返 済 期 間		
	20年以内 (うち据置2年)	10年以内 (据置年数含む)	6年以内 (据置年数含む)
【一般施設費】 園舎・遊戯室等の建築事業等 並びに園地の買収事業等	年% 0.9	年% 0.5	年% 0.5
【教育環境整備費】 校教具並びに通園バスの購入等	—	0.5	5年6か月以内 (うち据置2年) 0.4

※融資金利は毎月の金利情勢により変更することがあります。

※上記費目以外にも災害復旧事業、公害対策事業等が対象となります。

日本私立学校振興・共済事業団

融資部 融資課

〒102-8145 千代田区富士見1-10-12

☎ 03 (3230) 7861～7867

✉ yushi@shigaku.go.jp

教育と保育の一体化の動き

秋田県では、人口の減少が極めて深刻な問題となっています。県では人口問題対策連絡会議を設置し、人口減の原因分析に着手しているところです。2040年には人口が現在の約107万人から70万人に減るとの推計もあり、このまま人口減が続くと自治体が成り立たなくなる恐れが出ています。今年から始まる地方創生に期待して、出生数が増えていくことを願っているところです。

来年度から実施される「子ども・子育て支援新制度」については、現在全県で69園の私立幼稚園のうち、これまで4割の26園が認定こども園になっています。来年度からは更に14園が認定こども園への移行を希望し、6割近くが認定こども園になる予定です。

新制度に向かったの保護者ニーズ調査では、保育所より幼稚園への入園を希望する親が多いのに、実際は定員を超えて保育所に子どもたちが入っている現状は問題だと思えます。私たちは、より多くの子どもたちに、教育環境が整った幼稚園で伸び伸びと遊び、様々な経験をして育ってもらいたいと考えています。これからは、子どもを中心に考えて就学前の子どもたちを再編して、保育所にすし詰めにする考え方から環境の整ったゆとりのある幼稚園にも入園できる環境作りで、新制度の求める教育と保育の一体化ができたらと思っています。

今年度は本県が東北地区私立幼稚園教員研修大会の開催県となり、保育の質の向上を目指し公開保育を通しての分科会協議会が開かれました。新制度を控えて東北の各園から参加された先生方が互いに学び合うことができ、東北が一つとなった大会となりました。

(秋田県私立幼稚園連合会教育研究委員長、秋田市・土崎幼稚園／伊藤敬二)

新制度への取り組み

平成27年、子ども・子育て支援新制度開始まで残り時間が少なくなってきました。県内各市町において、子ども・子育て会議で議論がすすめられ、各幼稚園の新制度への対応状況が決まってきたようです。

愛媛県下では98の私立幼稚園のうち、平成27年度以降新制度への移行予定、移行する方向で検討している園が41園となっています。松山市内では44園のうち平成27年度から新制度に移行する園が14園となっています。

しかし、各幼稚園の対応状況は決まってきたものの、利用者負担額については、明確に示されておらず、各園対応に苦慮しているようです。松山市については、私立幼稚園は国の水準に合わせ、所得による応能負担することにし、その額については、松山市内の私立幼稚園の入園料と保育料月額を考慮して、第5階層の利用者負担額が17,000円を上回らない範囲で設定する方針が示されています。

一方、市立幼稚園は、現在の保育料が1号認定子どもの利用者負担額として設定予定の額よりも低い額に設定され、激変を緩和するという理由で、平成27年度は、現行水準を維持し、その後、段階的に1号認定子どもの利用者負担額に合わせていく予定となっています。新制度に移行しながらも、公私格差が依然として残るようです。

全ての子どもたちにとって、健やかな育ちが保証される制度になるようこれからも声を上げていかなければと感じています。

((一財)愛媛県私立幼稚園協会常務理事、松山市・慶応幼稚園／二宮一朗)

(公財) 全日私幼研究機構・賛助会員 (幼児の保護者等) 入会のお願い

「全日私幼連PTAしんぶん」 をぜひご活用ください

(公財) 全日私幼研究機構では、平成 27 年度の賛助会員 (幼児の保護者等) のご入会を受け付けております。賛助会員へのご入会は幼稚園でお取りまとめの上、都道府県団体を經由してお申し込みいただいております。

年間会費一口 250 円で、月刊紙 (8 月は休刊) として P T A しんぶんを配布しております。入会申込書は各園にお送りしておりますが、本財団のホームページからのダウンロードもできます。

ぜひとも賛助会員へのお申し込みをご検討くださいますよう、よろしくお申し込み申し上げます。

編集後記

「寒いねえー！あったかくするにはどうしたらいいとおもう？」「大きな声を出す」「おにごっこ」「はしるー」

新年のあいさつの後の子どもたちとのやり取りです。寒いという自然界の出来事と自分たちの行動をイメージの中で結びつけて、経験をもとに考えを言える子どもたちに接して成長したなあという思いを持ちました。また、日本に四季があつてよかったとつくづく思います。

気温・天気・植物・食べ物・行事など季節によって変化があり、そのことにはある意味、幼稚園の活動において縁の下の力持ち的役割をしていると感じます。四季に応じて、いろいろな環境を用意することにより子どもがいろいろな物に出会い幼稚園内での「ひと・もの・こと」が沢山になり、その事が子どもたちにとって宝物になるように、成長の糧となるように願いをこめて、たくさんの「ひと・もの・ことを」を準備したいと思いました。

(調査広報副委員長・川名マミ)

地震対策は お済みですか？

耐震補強実績
木造 1,800棟
非木造 3,500棟
達成

補助金が利用できます！

私立幼稚園施設整備費補助金 (文部科学省) 申請により、要件を満たす建物の耐震工事についての補助金

補助額 全体費用 (設計+工事) の

最大 50%

耐震補強の専門スタッフが疑問にお応えします。

- 園児を地震から守るために！
- 園児の保護者が安心できるように！
- 建て替えまでの応急処置に！

外付け施工なので工事中も普段通りに使用可能

通風・採光・出入り
も今まで通り

公的機関の
技術評価取得

補助金対象工法



ウッドピタフレーム
(5本柱タイプ)
木造幼稚園



鉄筋コンクリート造
耐震工法
「ピタコラム」
鉄筋コンクリート造 幼稚園

お問い合わせ、資料請求は



0120-260-220 (受付時間) 9:00~17:00

ウッドピタ

検索

株式会社ピタコラム
ウッドピタ事業本部

(株)ピタコラムは矢作建設工業(株)(東証一部上場)の100%子会社です。